



## コロナ禍だからこそ 「在宅取組型家庭教育学級」の意味するもの

コロナ禍を機会に、園・学校と家庭（地域）がより連携し、子育て・教育を進める仕組みづくりを行うことは、とても大切です。「在宅取組型」は、その有効な手立ての一つです。

- ① 集まらなくとも、各家庭の実情（めあて・期間）に合わせて取り組むことができます。
- ② 親子（家庭）のコミュニケーションを活性し、家族の一員としての大切さを育むとともに、家庭教育の充実を図ることができます。
- ③ 自ら（親子で）目標をもち、自ら計画を立て、自ら評価しながらコツコツ取り組む習慣（力）を育むことができます。
- ④ 園や学校でできることが、家庭や地域でもできるように育むことができます。（園や学校と家庭をつなぐ取組）
- ⑤ 幼保小の時期に在宅取組型で身に付けた基本的な学習・生活習慣は、中高の時期へもつながる習慣（力）となります。
- ⑥ 県家庭教育支援条例第2条に示す基本的な事項はもちろんのこと「幼児期に身に付けたい10の姿」や「非認知能力」の育成に向けて、取り組むことができます。

現在、実践カードを活用しての「在宅取組型」の取組は、園や学校また児童館などにおいて様々な形で取り組まれていることと思います。

- ・今一度、上記の内容を参考に、現在取り組まれている内容の値打ちを再確認してみてください。
- ・「私の園・学校では、〇〇な実践があります!」「〇〇な課題があるのですが、どうしたらよいですか?」等々ありましたら、是非ともご連絡ください。